

風疹に関する疫学情報：2021年1月13日現在

国立感染症研究所 感染症疫学センター

2021年第1週の風疹報告数

2021年第1週（1月4日～1月10日）の風疹報告数は0人であった（図1、2-1、2-2）。第1週に診断されていても、2021年1月14日以降に遅れて届出のあった報告は含まれないため、直近の報告数の解釈には注意が必要である。

先天性風疹症候群の報告数

2008年の全数届出開始以降の風疹ならびに先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）の報告数を示す(<http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/700-idsc/5072-rubella-crs-20141008.html>)。2018～2019年の流行で、2019～2020年に5人がCRSと診断され報告された（図3）。

2013年以降の風疹報告数

2013年（14,344人）の流行以降、2014年319人、2015年163人、2016年126人、2017年91人と減少傾向であったが（図2-1,2-2,3）、2018年は2,941人、2019年は2,306人が報告され、2021年は第1週時点で報告はない（図1,2-1,2-2,3）。

図1

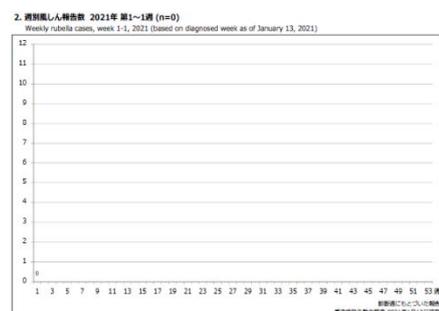


図2-1

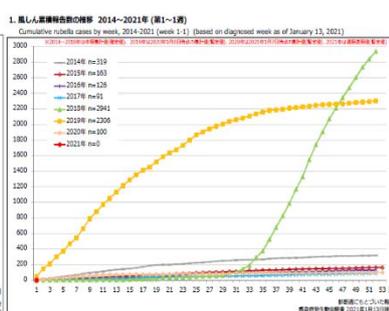


図2-2

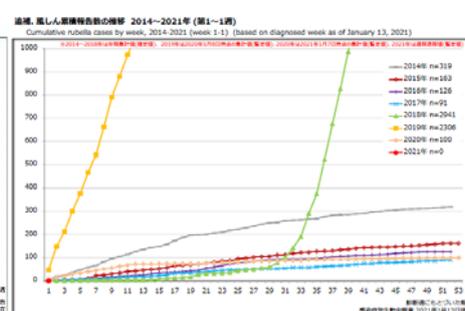
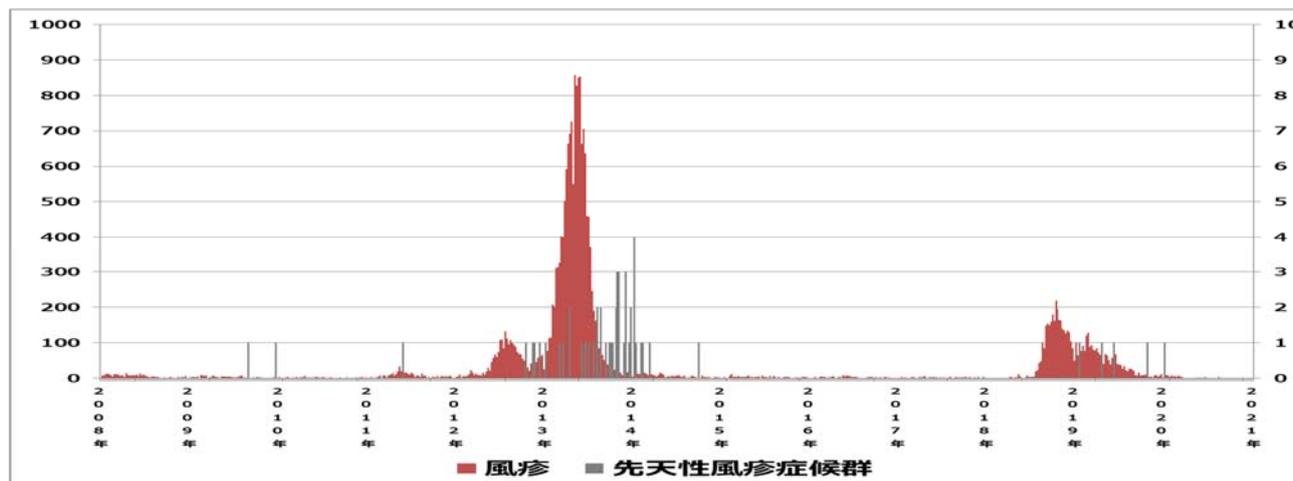


図3

風疹(人)

先天性風疹症候群(人)



地域別報告数

第1週は全都道府県で、報告がなかった(図4,5,6,7)。

図4

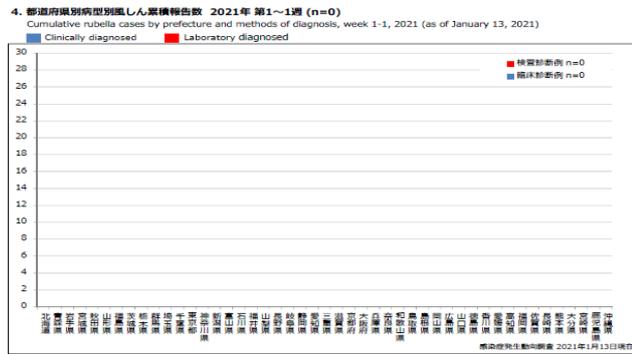


図5

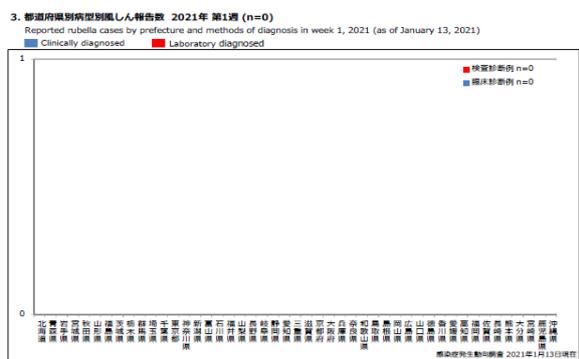


図6

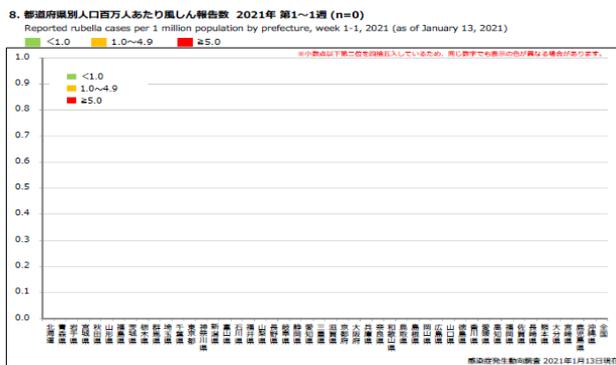
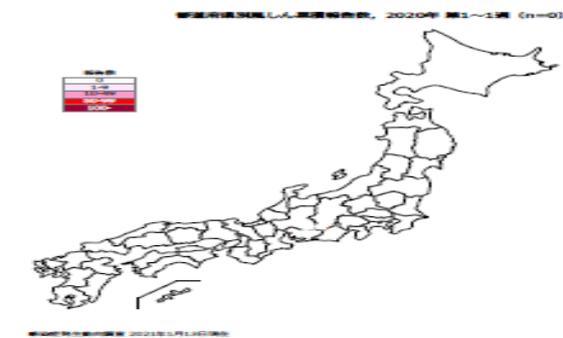


図7 都道府県別風疹報告状況 (2021年 第1週)



年齢・性別

第1週は男女とも報告がなかった(図8,9,10)。

図8

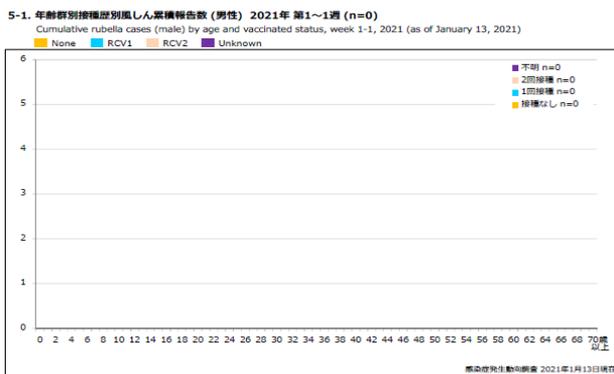


図9

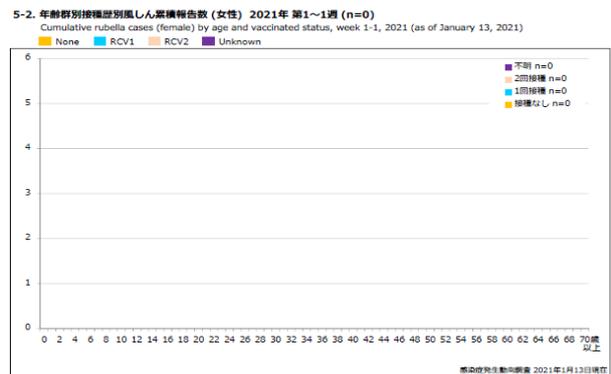
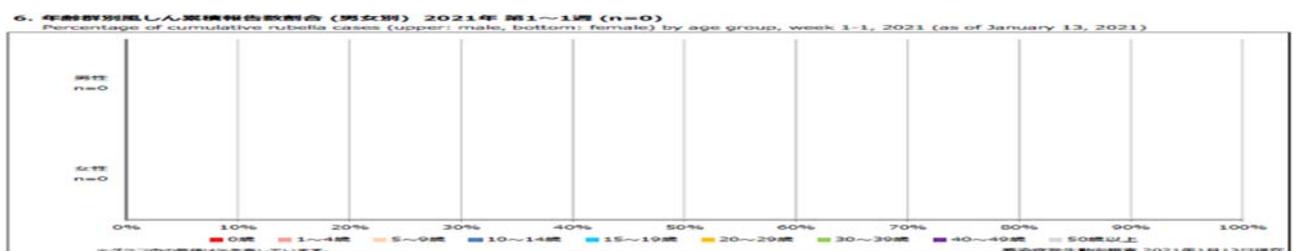


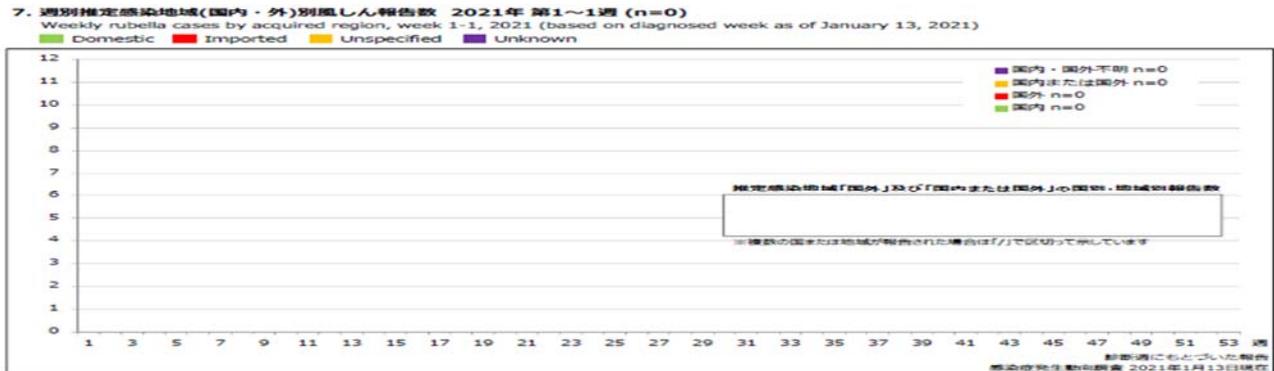
図10



推定感染地域

第1週は報告がなかった。(図11)。

図11

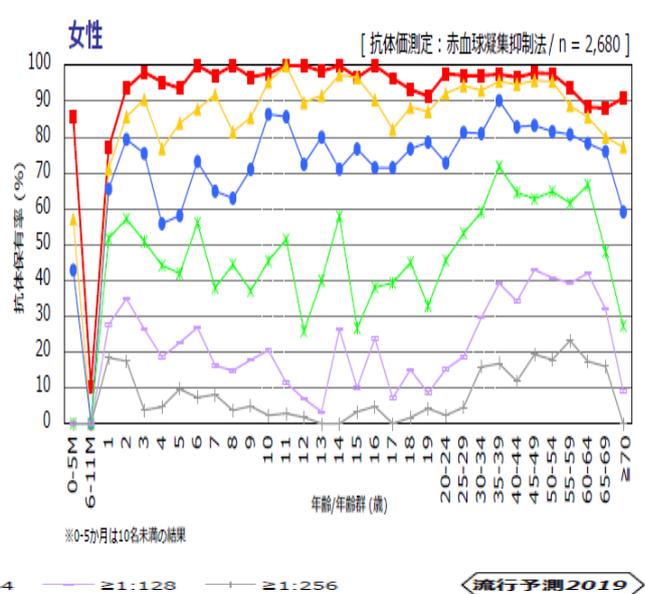
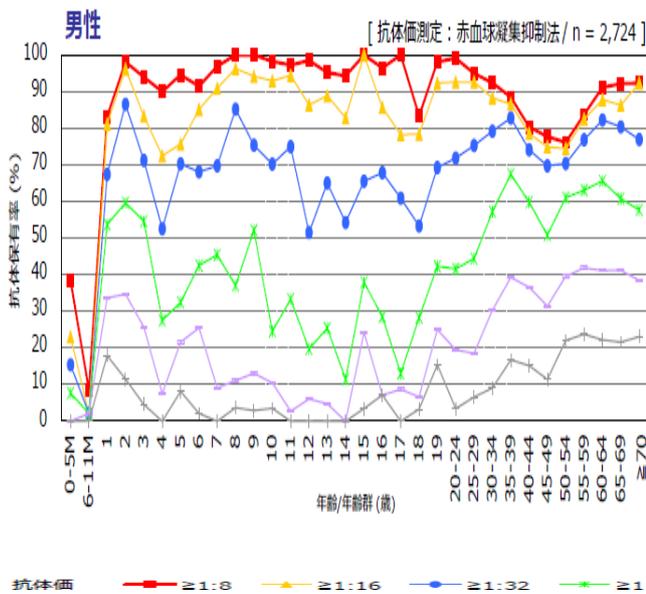


風疹 HI 抗体保有状況

風疹はワクチンによって予防可能な疾患である。予防接種法に基づいて、約 5,000 人規模で毎年調査が行われている感染症流行予測調査の 2019 年度の結果を見ると、成人男性は 40 代前半 (HI 抗体価 1 : 8 以上 : 80%)、40 代後半 (同 : 78%)、50 代前半 (同:76%) ,50 代後半 (同:84%) で抗体保有率が特に低い (図 12-1)。2019~2020 年の風疹患者報告の中心もこの年齢層の成人男性であることから、この集団に対する対策が必要である。一方、妊娠出産年齢の女性の抗体保有率 (HI 抗体価 1:8 以上) は概ね 95%以上で高く維持されていた (図 12-2)。妊婦健診で低いと指摘される抗体価 (HI 抗体価 < 1:8, 1:8, 1:16) の割合は 20 代前半で 27%、20 代後半で 19%、30 代前半で 19%、30 代後半で 10%、40 代前半で 17%、40 代後半で 17%存在することから (図 15-2)、特に妊娠 20 週頃までの妊婦の風疹ウイルス感染には注意が必要である。

図 12-1 男性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況

図 12-2 女性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況



【2019年度風疹感受性調査実施都道府県】

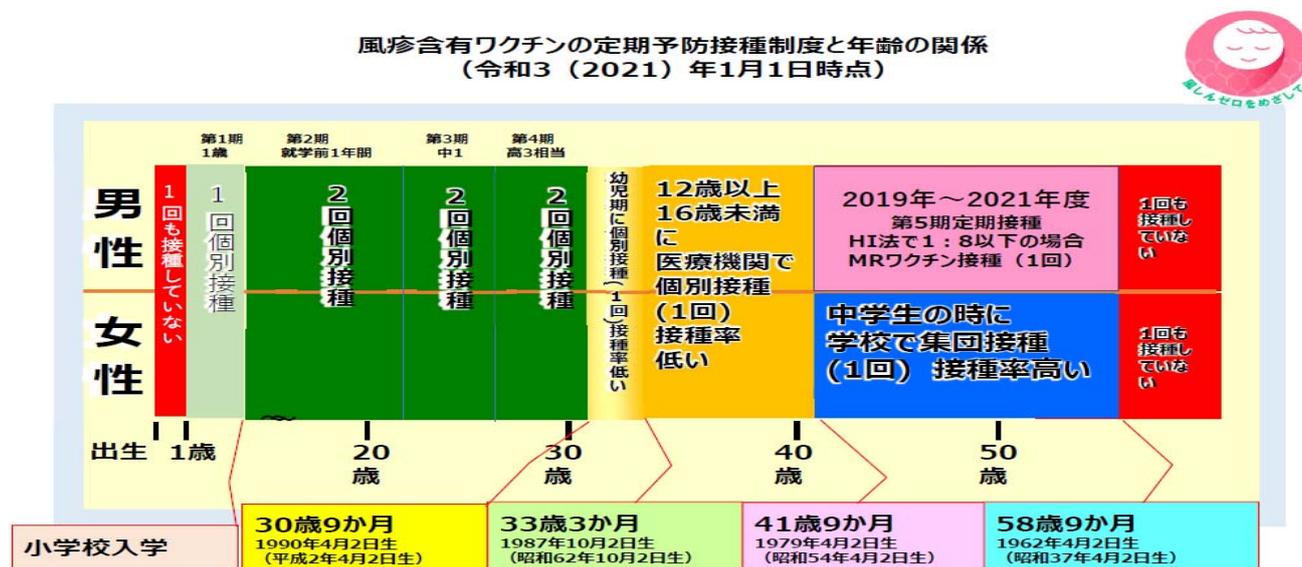
北海道, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 石川県, 長野県, 愛知県, 三重県, 京都府, 山口県, 高知県, 福岡県, 沖縄県

流行予測2019

第5期定期接種

風疹第5期定期接種対象の昭和37(1962)年4月2日～昭和54(1979)年4月1日生まれの男性(図13)は、積極的に風疹抗体検査を受け、検査結果に応じて予防接種を受けることが勧奨されている。

図13



対象者に対しては、市町村からクーポン券が送付されるが、2019年度に続き、2020年度も各自治体からクーポン券が発送された (<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000645412.pdf>)。発送された対象者は自治体によって異なる。厚生労働省によると、2019年4月1日時点の第5期定期接種対象(昭和37(1962)年4月2日～昭和54(1979)年4月1日生まれ)の男性人口は全国で15,374,162人であった。2020年10月までに抗体検査を受けた人が2,696,049人(クーポン券使用2,629,742人、自治体66,307人)で対象男性人口の17.5%(2020年9月から0.4ポイント増加)、予防接種を受けた人は553,128人(クーポン券使用540,031人、自治体13,097人)で対象男性人口の3.6%(2020年9月から0.2ポイント増加)であった。

各都道府県別のクーポン券使用者数を下記に示す(図14, 図15)。クーポン券使用割合が高かった上位5自治体は富山県、長野県、岩手県、秋田県、滋賀県、下位5自治体は京都府、沖縄県、大阪府、神奈川県、福岡県であった(図16)。なお、クーポン券が未送付であっても、市町村に希望すれば、クーポン券を発行し抗体検査を受検できる。風疹抗体検査・風疹第5期定期接種受託医療機関については厚生労働省のホームページ(「風しんの追加的対策について」https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html)を参照のこと。

風疹はワクチンで予防可能な感染症である。

図 14 各都道府県別の抗体検査実施者数（厚生労働省健康局結核感染症課調査）

図 15 各都道府県別の予防接種実施者数（厚生労働省健康局結核感染症課調査）

図 14

図 15

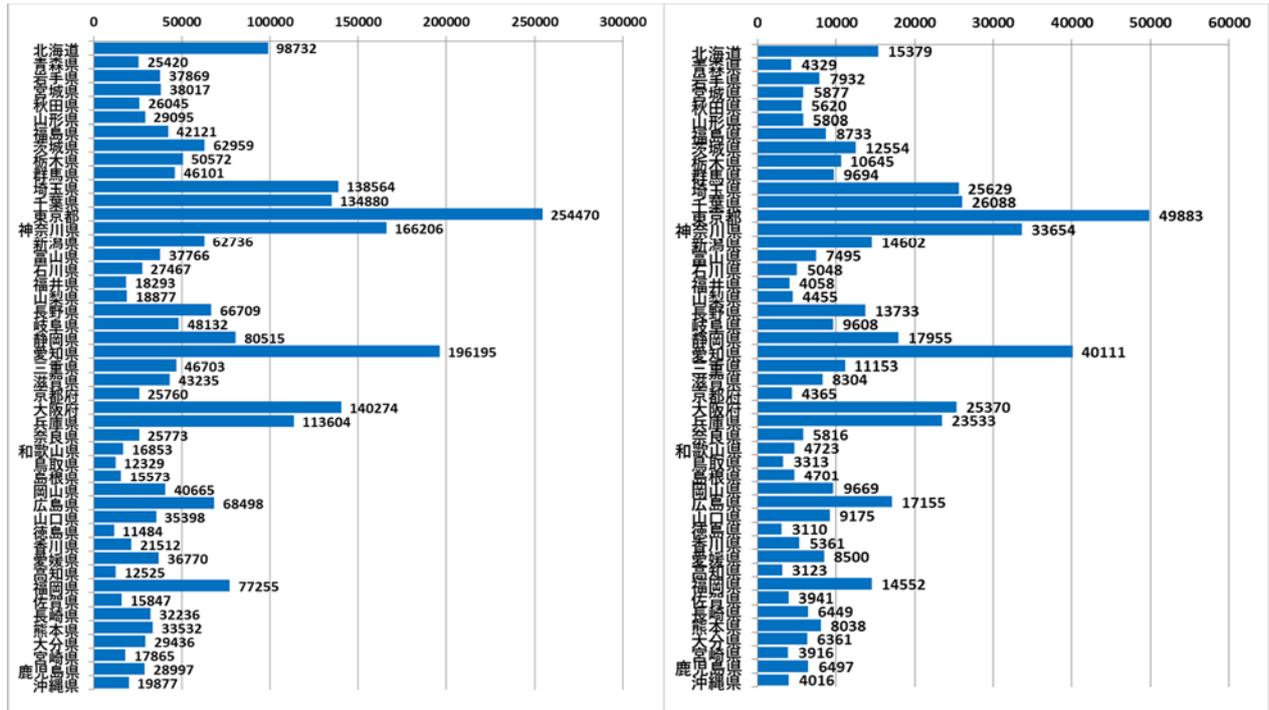


図 16 各都道府県別の抗体検査実施者割合（厚生労働省健康局結核感染症課調査） (%)

